

発刊のことば

滋賀県史研究編集会議

今回の県史編さん事業は、令和四年（二〇二二年）九月に滋賀県が誕生一五〇年の節目を迎えたことを記念とするもので、滋賀県が誕生した明治五年から令和四年までの一五〇年を主な対象としています。通史編四巻、資料編二巻のほか、通史編をわかりやすく約一〇分の一にまとめた巻、写真と図で振り返る巻、年表が各一巻の全九巻の刊行を予定しています。現在、①政治・行政（戦前）、②政治・行政（戦後）、③産業・経済、④環境・琵琶湖、⑤社会・福祉、⑥教育・文化・民俗の六つの専門部会を設けて、資料収集を進めているところです。

滋賀県立公文書館では、明治から現代までの歴史公文書約三万冊が公開されているなど、資料保存の点で滋賀県は全国的に見ても恵まれた県です。この公文書等、膨大な資料のさらなる活用と成果が期待されます。このたび刊行する『滋賀県史研究』は、滋賀県の近現代史に関する研究成果を公表し、県史の水準の向上と、地域史研究の進展に寄与することを目的としています。

現在の日本社会は、少子高齢化を含め、ここ三〇年来の経済停滞と財政赤字の蓄積によって、どこまで没落しているのかと多くの人が不安に思い始めています。このような時代においては、人々にとつて何が本当に重要なのか、それを守るにはどうすればよいのかを、過去の歴史や日本の変化のなかで見つめ直しながら考えることが大切と思われるます。今回編さんする県史とともに、『滋賀県史研究』もまた、人々の立場を越えて未来を選択する素材となることを願っています。私たち編集会議は、県民の皆様にも親しまれ、かつ学問的批判に耐え得る研究誌の刊行を目指し、努力を重ねるつもりです。

末筆ながら、このたび玉稿を寄せられました執筆者各位に厚く御礼申し上げます。

令和七年（二〇二五年）三月